

# 令和7年度 自己評価・関係者評価報告書

幼保連携型認定こども園 月が丘幼稚園・保育園

## 1、はじめに

本報告書は、保護者アンケートおよび職員アンケートの結果を比較分析し、今年度の教育・保育活動の成果と課題を明らかにしたものです。これに基づき、次年度の重点的課題を策定いたしました。

## 2、アンケート項目別分析（※全10項目から主要な傾向を抜粋）

### 項目2：過程との連絡や意思疎通

現状：保護者評価は92%、職員評価が95%。

分析：双方向の課題として、職員は「丁寧に伝えているつもりでも、受け止められ方が違ったり、求められている回答とズレが生じたりしている」と分析している。バス通園や預かり保育の利用により、保護者と直接対面できないことが「ややそう思わない」等の評価につながっている可能性がある。園用品の詳細な出来事の報告を求める保護者ニーズを職員が把握しているため、引き続きの情報共有対応を行う。

課題：丁寧な言葉選びとICT活用により、対面・非対面を問わず、保護者の満足度を高める情報共有を徹底する。

### 項目3：過程との連携方法

現状：保護者評価93%、職員評価100%

分析：園便りや連絡ノートに加え、Instagramやホームページ、テレビニュースなど多角的な発信が認知されており、文章だけでは伝わりにくい園での姿を、写真を増やすことでより具体的にイメージし易いよう努めている。職員全員が肯定的評価だが、半数以上が「ややそう思う」であり、発信内容が保護者にとって本当に分かりやすいものになっているか改善の余地を感じ、職員の課題意識が見られる。

課題：親しみやすい全体発信と、学年差のないきめ細かな個別報告で、園の様子を可視化する。

### 項目4：環境整備

現状：保護者評価91%に対し、職員評価70%

分析：保護者の9割以上が肯定的であるのに対し、職員の3割が否定的な自己評価をしており、現場の危機意識が高く、「見えないところの掃除がおろそかになっていた」「もっとすみずみまで掃除すべき」といった、日々の清掃体制への反省がある。また、建物や用具の老朽化に加え、「安全面で危険な箇所がある」という認識が職員間にあり、今後の不信感へのつながりを懸念している。

課題：徹底した安全管理と、子どもの心に響く環境づくりを追求する。

## 3、次年度の重点的課題

- ① 丁寧な言葉選びとICT活用により、対面・非対面を問わず、保護者の満足度を高める情報共有を徹底する。
- ② 親しみやすい全体発信と、学年差のないきめ細かな個別報告で、園の様子を可視化する。
- ③ 徹底した安全管理と、子どもの心に響く環境づくりを追求する。

## 4、総括

今年度は多くの項目で保護者より高い評価をいただきました。次年度は、この信頼を基盤としつつ、職員の自己評価で見えた「環境整備」や「食育」「対話の質」の向上に組織的に取り組み、より安心・安全で質の高い教育・保育を提供してまいります。

## 5、令和7年度 関係者評価委員の意見

### ① 分析結果から感じた園の強みや可能性

○保護者アンケートにおいて、「そう思う」回答が70%を超えている項目は、「1. 充実した教育・保育の展開」と「8. 基本的な生活習慣・社会性の育成」「9. 慈しむ教育・保育の展開」である。この3項目が、特に本園の強み、良さであると考えられる。個人的にはこの中でも「9」が特に重要だと感じており、この評価が高いということはとても素晴らしいと思う。支援が必要な子であればあるほど、慈しんで育ていかねばならず、それは教育・保育に携わる者が備えていなければならない必須の資質だと思う。保護者にそこを評価されたということは、本当に素晴らしい。

○先生方がミーティングを重ね、信念をもって保育に当たっている様子が読み取れました。保護者の求めも各自ばらつきがあると思いますが、信頼関係の深化が重要であることを、先生方共通で理解していて心強く思いました。広報活動も充実していると感じます。

○アンケート項目2・3について、保護者評価より職員評価が上回っているが、双方の伝え方や言った言わないという難しさを感じているように見受けられた。アンケート項目1・7・9について、子ども達が楽しく通園できていることや、保護者も安心して預けている様子が感じられる。その一方で、職員評価が低いこと（自己肯定感）が気になった。子ども・保護者の満足度は高いため、職員の皆さんにはもっと自信を持っていただきたい。アンケート項目4について、掃除について反省が見られたが、忙しく手が回らないのであれば業者あるいは保護者にボランティアとしてお願いするのはいかがでしょうか。

### ② 今後、より良い園にしていくための前向きなヒント

○質問文にある「充実」「ていねい」「適切」「適当」「慈しむ」等々の抽象的な文言を具体化し、職員全体で共通理解しておくと思う。（「ていねい」な意思疎通とは、具体的にどのようにすることなのか、保護者が「ていねいだ」と感じられるような具体場面等を職員で出し合っても良いのでは。）園全体で高い質の教育・保育を提供するためには、このことにも留意する必要があると思う。

○広報に関して文章も大事だが、Instagramを活用しているのでこれを有効に利用していただきたい。清掃活動は改善できると思います。予算面もあると思うので修繕等は緊急性のある所から手をかけていただく。

○ジョブローテーション：専門学校教員と月幼保職員でローテーションを組み、実習巡回で得た他園の様子をいかすなど、定例にするのはどうか。月幼保カフェ：市内にある〇〇幼稚園を参考に、子育て世代の保護者が集まり、コーヒーを飲みながらおしゃべりを楽しむ空間を作ってみるのはどうか。保護者のちょっとした息抜きや、園長先生方が対応することでクレームを事前に縮小できるのではないかと考えます。